

## 子どもと女性の犯罪被害と防犯まちづくりに関する基礎的研究

—広島県広島市を対象として—

広島県庁 学生会員 ○竹下 惇那  
 広島工業大学 正会員 今川 朱美

## 1. 研究の背景と目的

子ども・女性に対する犯罪は、被害者や家族に大きな心の傷を残し、地域社会に大きな衝撃を与えるため、未然防止が必須である。広島市では、犯罪認知件数は減少傾向だが、子ども・女性に対する声かけ事案は依然高い水準(平均4件/日)である。

犯罪学では、人に注目した「犯罪原因論」と場所に注目した「犯罪機会論」が確立している。昨今では、犯罪の原因を除去するよりも犯罪の機会を除去する方が犯罪を確実に減らすことができる、という理由から、「犯罪機会論」が急速に受け入れられた。

これを踏まえて、防犯活動とまちづくりを相互に組み込み、犯罪が起こりにくく、犯罪に対して抵抗力のあるまちづくりを行う「防犯まちづくり」を、関係省庁と連携しながら進めている。

本研究では広島市を対象に、子どもと女性の犯罪発生の背景と要因などを調査し、犯罪を誘発しやすい環境や空間構成について考察する。そして、安全安心なまちづくりに有効な手法を提案するものである。

## 2. 研究の概要

本研究では、広島県警察が認知している2019年4月から2022年12月の女性と子どもの性犯罪・声かけ事案等の犯罪発生箇所を用途地域図上に示し、土地利用との関係を分析する。しかし、女性の被害者は報告がされないことも多いため、協力を得られた広島文教大学附属高等学校(以下広島文教高校)の生徒にアンケート調査、広島市の大学(13校)に通う女子大学生と20代女性にWEB調査を実施し、犯罪経験箇所と犯罪不安箇所について独自にデータ収集を行う。

独自調査により得られた犯罪発生箇所や犯罪不安箇所も県警データに追加し、可部地区では犯罪発生箇所の現地調査も実施する。また、広島都心と五日市地区において、500mメッシュの人口データ上及び250mメッシュの流動人口データ上に分布を示し、公立小学校の児童1人あたりの犯罪発生率を算出することで、人口と犯罪発生の関係を確認する。

## 3. 犯罪発生状況

広島市の中でも市街地類型の異なる広島都心、五日市地区、可部地区において比較を行った。

犯罪発生箇所より、女性を対象とした犯罪は、商業地域や主要道路などに集中し、子どもを対象にした犯罪は住所地域(生活圏)で多く、広く分布している。

WEB調査による犯罪発生箇所は、警察が把握していないものがほとんどであった。また、治安が良くないところや暗くて街灯がないところに犯罪不安を感じる女性が多いと分かった(図1、図2、図3)。

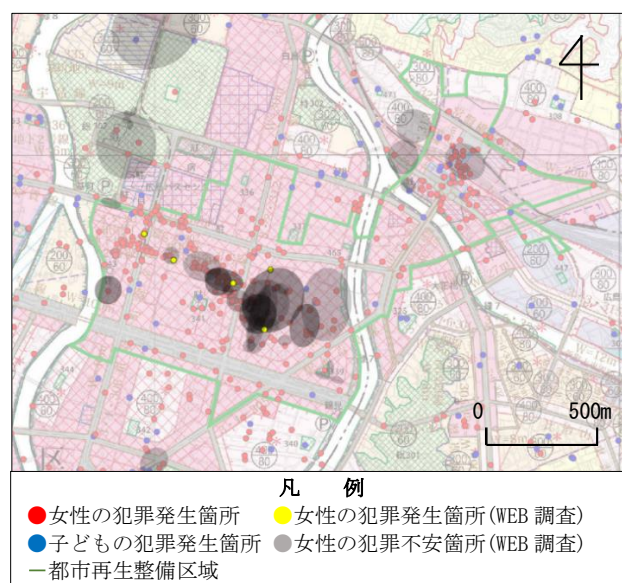


図1 広島都心の犯罪発生箇所(2019.4-2022.12)

キーワード 防犯まちづくり、犯罪機会論、犯罪認知、土地利用

連絡先 〒731-5193 広島市佐伯区三宅2-1-1 E-mail: a.imagawa.vf@it-hiroshima.ac.jp

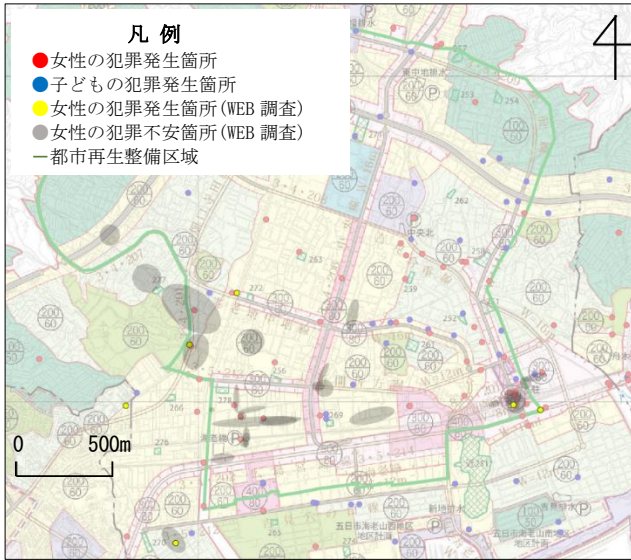


図2 五日市地区の犯罪発生箇所(2019. 4-2022. 12)

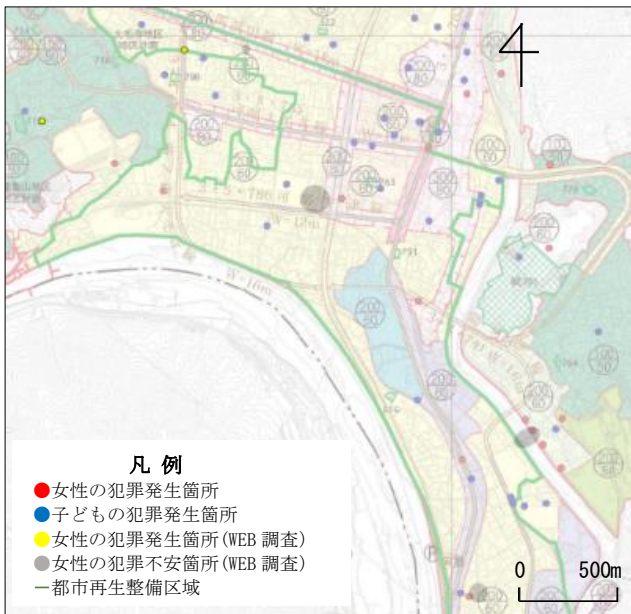


図3 可部地区の犯罪発生箇所(2019. 4-2022. 12)

犯罪が多発している箇所と犯罪不安を感じる箇所は必ずしも全て一致しなかったが、警察が把握している犯罪件数はごく僅かだということが分かったため、防犯まちづくりにおいて犯罪不安の緩和も重要であると考えます。

#### 4. 可部地区における女性被害状況

広島文教高校の女子生徒にご協力いただき、高校周辺で犯罪被害を受けた箇所及び、犯罪不安を感じる場所についてアンケートを実施し、275人から回答を回収した(回収率80%)。

アンケート調査結果より、危ないと感じるエリアを重ね、不安を感じた生徒が多いほど、色が濃くなるように示した(図4)。確認した犯罪被害箇所は、不安を感じている箇所に含まれていることが分かる。また、不安を感じる場所は、公園や公園前の街路が多く挙げられている。

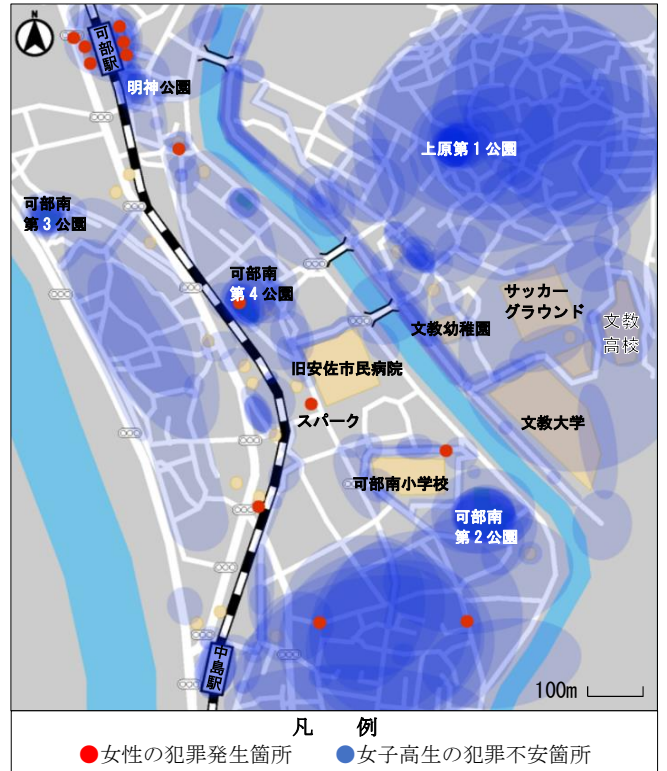


図4 犯罪発生箇所及びアンケート集計結果

図5では、犯罪不安を感じるエリアについてスポットを当てるような表現で示したところ、土地利用は、住居系の割合が多く、次いで工業系のエリアが浮かび上がるように確認できた。これらのエリアで不安を感じる要素としては、監視性が低いこと、つまり見守りの目の不足によると考えられる。また、犯罪頻発箇所は、国道に沿って JR 可部線の可部駅となっている。人の往来が激しい場所であり、犯罪の機会が多いことが考えられる。

可部地区においても、WEB 調査の結果と同様に、警察が把握している犯罪発生状況と、アンケートにより犯罪が確認できた箇所とは全く一致していない。つまり、女子高生は被害報告をしていないのである。

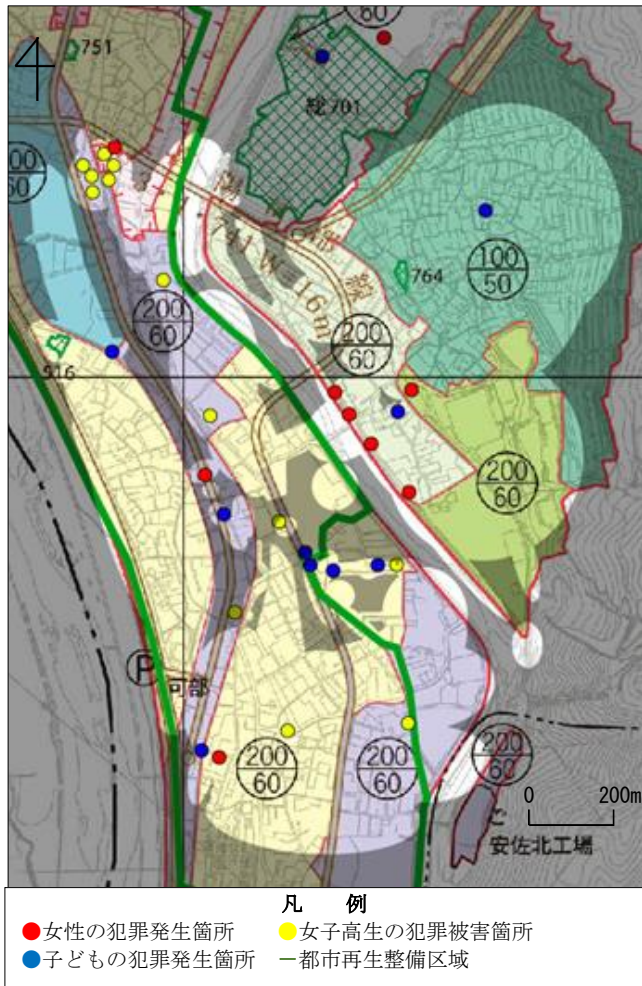


図5 犯罪発生箇所及びアンケート集計結果

表1 現地調査箇所

調査場所	日中	夜間
日中照度：21430Lux 夜間照度：0.20Lux(街灯付近 3.54Lux)		
調査場所	日中	夜間
道路幅員：4.7m, 日中照度：7700Lux 夜間照度：0.47Lux(街灯付近 9.44Lux)		
調査場所	日中	夜間
日中照度：2440Lux 夜間照度：3.55Lux(照明付近 7.60Lux)		

### 5. 市街地における犯罪発生状況と防犯

犯罪があった箇所と犯罪不安を感じた女子高校生が多かった18箇所について現地調査を行った。5か所は公園、4か所が小売店付近であった。

現地調査では、道路幅員、施設整備状況、路上の使用状況や交通量を確認し、日中と夜間に照度測定を行った。調査の結果より、2つの共通点がみられた(表1)。

まず、防犯上安全な照度基準は、道路・公園・駐輪場などは、人の行動を視認できる3Lux以上とされている。しかし、調査箇所についてはこれが満たされていないことが問題点としてあげられる。つぎに、庭木や公園樹、塀により死角が認められた。

犯罪多発箇所である駅前についてはこの限りではなく、防犯上安全な照度基準を満たしていたため、防犯カメラの設置等が効果的であるといえる。

広島都心、五日市地区において、居住人口、流動人口、公立小学校の児童1人あたりの犯罪発生率に着目し、分析を行った。

犯罪の発生場所は居住人口に関係なく、携帯電話のGPSデータによる流動人口に関係があり、特に商業地域や駅周辺の流動人口が多いと分かった。しかしながら、流動人口と犯罪発生数に必ずしも正の相関があるとはいえず、特に子どもの犯罪は流動人口が少ない箇所でも多発していた。これは、子どもの携帯電話の保有率が低く、有効な分析が行えなかったためである。

そのため、子どもの犯罪発生状況については、広域ではなく小学校区での状況を考察することとした。公立小学校の児童1人あたりの犯罪発生率を求めた結果、全校生徒数が多い小学校区での犯罪発生率は低いことが確認できた(表2、表3)。

表2 広島都心の小学校区ごとの犯罪発生率

小学校区	犯罪発生数	全校生徒	児童1人あたり 犯罪発生率
荒神町	11件	118人	9.32%
袋町	16件	245人	6.53%
基町	3件	83人	3.61%
尾長	23件	665人	3.46%
幟町	15件	456人	3.29%

表3 広島都心の小学校区ごとの犯罪発生率

小学校区	犯罪発生数	全校生徒	児童1人あたり 犯罪発生率
鈴が峰	6件	164人	3.66%
美鈴が丘	16件	537人	2.98%
井口明神	8件	366人	2.19%
五日市	19件	902人	2.11%
井口台	6件	400人	1.50%

このことから、子どもの防犯において、犯罪が多発している所よりも犯罪発生率に着目するべきであるといえる。

## 6. 結論

本研究の結果より、犯罪が起こる箇所は予測することができることが確認できた。犯罪予測のためには、市街地類型ごとの特性を把握した上で、必要箇所での領域性と監視性について分析を行うことが重要である。

領域性確保のためには、フェンスやガードレールの設置や、コミュニティ道路などの道路整備を、監視性確保のためには、防犯カメラやセンサーライト、街灯の修繕や設置、植栽を管理する等の手法を提案する。しかし、道路幅員が狭い箇所では領域性の確保が難しいため、監視性の確保が有効であると考えられる。このように、その土地や環境に応じた対策を検討する必要がある。

犯罪を減らすため、また、防犯まちづくりについて考察を行うには、犯罪箇所を把握することは必須である。しかし、現状として被害届がないため実際の犯罪発生箇所が不明となっている。そこで、学校や地域のコミュニティでアンケートを実施し、実際の犯罪発生箇所と犯罪不安箇所を把握する必要があると考

える。更に、地域環境の問題(街灯の不具合等)への気づき、地域環境の整備(植栽の管理やゴミ拾い等)も大切であり、これら全て地域住民の協力が必要不可欠である。

改めて防犯まちづくりは、行政や警察、住民等、様々な関係者の連携が大切であるといえる。

## 謝辞

本研究では、多くの方にお力添えをいただいた。まず、広島県警察本部生活安全総務課川中和之氏より犯罪発生状況のデータをご提供いただくことができたことから、研究を始めることができました。深くお礼申し上げます。また、広島文教高校では、全校生徒を対象にアンケート調査を実施させていただき、有益なデータを得ることができました。心より深謝申し上げます。さらに、多くの女子大学生のみなさんと社会人女性の方に、WEB調査にご協力いただけたことにも感謝しています。最後に、株式会社福山コンサルタントの松下雅典氏には、GISの利用に関し、丁寧にご指導をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

## 参考文献

- 1) 小宮信夫「なぜ『あの場所』は犯罪を引き寄せるのか」株式会社青春出版社、2015
- 2) 曾我健太「防犯まちづくりに関する研究～広島市西区の住宅地を事例として～」2016年度広島工業大学工学部都市デザイン工学科卒業研究、2017
- 3) 雨宮護・島田貴仁「都市の空間構成と犯罪不安の関連 -地域特性を考慮した防犯まちづくりにむけた基礎的研究-」(社)日本都市計画学会 都市計画論文集 No. 44-3 p. 295-300, 2019
- 4) 小宮信夫「犯罪学における犯罪鯨飲論と犯罪機会論」pp781-802, 法学新報 123 巻, 2017
- 5) 小出治・樋村恭一「都市の防犯 -工学・心理学からのアプローチ-」(株)北大路書房、2003
- 6) 広島県警察ホームページ「広島県警察安全安心マップ」(2023年3月現在)  
<https://map.police.hiroshima.dsvc.jp/>